

2024年7月17日付・下野新聞17面

記事は加工しています



フジロックフェスティバルのメインステージ＝2023年7月、新潟県湯沢町

地元と歩み A 回目の夏

野外音楽イベント「フジロックフェスティバル」が26～28日、新潟県湯沢町の苗場スキー場で開催される。1999年に苗場に会場を移し、コロナ禍の1度の中止を経て今年で25回目。「自然と音楽の共生」を掲げて地元自治体と手を携えながら歩んできたフジロックは、野外フェスという文化を育み、定着させた。

野外フェス B

の自発的な呼びかけもあり、ボランティアが会場でごみの分別を買ってたり周囲のごみを拾ったりする動きが広がると、地元の見目も変わった。主催するスマッシュ（東京）の執行役員の石飛智紹さんは「自分たちが迷惑をかけたら二度と開けないという危機感が観客にあった」と話す。森の中に複数のステージが点在する会場は、スキーブームの時代に整地されたが現在は使われなくなったエリアなどを活用している。ペットボトルのラベルをはがし、リサイクル目的の紙食器を導入したほか、

ボランテアが参加しての遊歩道整備など周辺の森林保護も積極的に進めてきた。そんなフジロックを愛したアーティストの一人が2009年に死去した忌野清志郎さん。忌野さんが作った「田舎へ行こう」は、フジロックのテーマ曲として今もファンに親しまれている。

常連出演者も多い。英ロックバンド「オアシス」のメンバーとして2回、12年と15年にはソロでも出演したノエル・ギャラガーさんは今年、最終日のトリを飾る。「僕らが目指すのはみんなで作るフェスです」と石飛さんは力を込める。コロナ禍で20年こそ中止を余儀なくされたものの、21年には観客数を大幅に制限するなどして再開にこぎ着けた。「湯沢町をはじめ行政の後押しもあった」

40、50代の客が多く、若い頃に通った客が子連れで再訪する例も。昨年始まったチケットが返礼品のふさと納税は23年度で約1億円を集めた。

ファンやアーティスト、自治体が一体となって音楽と自然を楽しむフェスの文化を育んできた。

自然と音楽の共生定着

「最初はロックへの偏見があったかもしれない。でも開催してみると、想像していたのとは違った」。湯沢町の田村正幸町長はそう振り返る。フジロックが始まったのは97年。最初の会場は富士山を望む山梨県鳴沢村のスキー場だった。初日に台風の影響で、雨をしのぐ場所もないまま泥まみれの混乱が広がり、2日目は中止された。翌年は東京都内で開催。その後、苗場開催案が浮上すると、反対する地元住民もいたという。

だが、インターネットで

設 問

【1】Aには数字が入ります。記事をよく読んで答えましょう。

【2】Bに入る語句として適するものに○を付けましょう。

〔 サマソニ・フジロック 〕

【3】記事にあるロックフェスティバルが始まったのは何年か、西暦で答えましょう。

【4】石飛さんは、どんなフェスを目指していますか。文章中の言葉で書きましょう。

【5】フェスを成功させるために、主催者や参加者はどのような活動をしてきましたか。